

## 市民バスへの IC カード導入について

### 1 目的

市民バスの利便性向上とキャッシュレス・非接触による新型コロナウイルス感染症対策のため、地域連携 IC カードを導入するもの。

### 2 事業概要

昨年度より、山形県と県内の民間バス事業者が連携し、県内全域をカバーする地域連携 IC カードを導入する準備を進めており、キャッシュレス・非接触によるサービスを提供するとともに、乗降データを活用したダイヤ・経路の見直しなどへの活用を図ることで、利用者の利便性向上やバスネットワークの持続性確保、利用促進を図ることを目指している。

本市においても、山交バス(株)が運行する路線バスと米沢市街地循環バス南回り路線に導入されることから、同じシステムを時期を併せて市民バスに導入することで、市内全域で一体的なサービスを提供するもの。

### 3 対象路線（導入車両）

市民バス・万世線 3 台

市民バス・市街地循環路線 3 台                      合計 6 台（予備車含む）

### 4 事業費

1 台あたり @3,659,000 円（税込）×6 台=21,954,000 円

（参考）ランニングコスト 3,648,000 円/年（南回り路線含む）

### 5 導入効果

#### (1) 利用者側

- ・ キャッシュレス・非接触により、新型コロナウイルス感染症防止対策となる。
- ・ キャッシュレスにより乗降しやすくなることで、高齢者や障がい者をはじめとした利用者の利便性向上と潜在的な利用拡大や乗降時間の短縮に繋がる。
- ・ 定期券等のペーパーレス化により、利便性向上と環境負荷の低減に繋がる。
- ・ 山交バス(株)や市民バスでの利用に加え、JR 東日本(株)の Suica とも連携することから、Suica エリア及び Suica と相互利用を行っているエリア（交通系 IC カードいわゆる 10 カードが利用できるエリア）で利用でき、他地域や鉄道をはじめとする交通機関とのシームレスな移動・決済が可能となる。（コンビニ、自動販売機等でも利用可。）
- ・ 山交バス(株)と連携した乗継ぎに料金設定（乗継割引等）が可能となることから、今後のバス路線の見直しと合わせて新たな料金設定についても検討していく。
- ・ 山交バス(株)では、システム利用者が連携したポイント付与サービスを検討しており、当サービスを活用することで、新規利用者の獲得や既存利用者の利用増に繋がる。

#### (2) 運営側

- ・ 乗務員の負担が軽減される。
- ・ 日々の運賃や利用状況の集計がシステム化されるため、事務量が軽減される。
- ・ 乗降データを可視化することで、ダイヤや路線見直し時に活用でき、効率化が図られる。

### 6 導入時期

令和 4 年 3 月（予定）